

平成26年度 お茶の水女子大学経営協議会〔第4回〕議事録

日 時：平成27年1月20日（火）15:00～16:35

場 所：お茶の水女子大学 大学本館2階 第一会議室（213室）

出席者：（学外委員）足立委員、檜田委員、小倉委員、小野委員、國井委員、野村委員、
前田委員

（学内委員）羽入学長、市古理事、耳塚理事、河村理事、江澤理事、
山崎副学長（事務総括）

（陪 席）斎藤監事、吉武監事

米田文教育学部長、藤田生活学部長、

最上大学院人間文化創成科学研究科長、浜口附属学校部長、

香西財務室長、新井総合評価室長

1. 前回議事録（案）の確認

- 修正等がある場合は、本日から一週間を目処に、企画戦略課（総務担当）まで連絡することとした。

2. 審議事項

（1）平成27年度学内予算編成方針（案）について

- 市古理事より、平成27年度学内予算編成方針（案）について、【資料3】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（2）第2期中期計画の変更について

- 市古理事より、第2期中期計画の変更について、【資料4】に基づき説明があり、「国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）」取組に伴う中期計画変更についての追加、文言等の修正については、学長に一任することとし、審議の結果、原案のとおり承認された。

学外委員より、機構や会議の設置の趣旨について確認があり、学長のガバナンスを基にした組織運営を行うことを大学の方針として示すための組織化であることの説明があった。関連して、学長のリーダーシップの強化に伴い、それに対する外部からの意見を取り入れるようなメカニズムが必要であるとの意見があった。

また、奈良女子大学と生活工学分野の共同教育課程を設置することの意義について質問があり、生活の視点を取り入れた女子大学ならではの新たな工学をすることで、それを足掛かりにして他の大学や組織と連携していく核となることを目指すとの説明があった。

3. 報告事項

（1）学長選考会議（平成26年10月21日）について

- 羽入学長より、平成26年10月21日開催の学長選考会議において、室伏きみ子名誉教授を次期学長候補者として選考したことの報告があった。

(2) 次期役員等の選任について

- 羽入学長より、次期役員等の選任について報告があった。

(3) 平成 27 年度運営費交付金内示の概要について

- 市古理事及び千葉財務課課長（経理・契約担当）より、平成 27 年度運営費交付金内示の概要について、【資料 5-1】から【資料 5-3】に基づき報告があった。

(4) 平成 25 年度に係る業務の実績に関する評価結果について

- 市古理事より、平成 25 年度に係る業務の実績に関する評価結果について、【資料 6】に基づき報告があった。

(5) 国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の一部改正について

- 山崎副学長（事務総括）より、国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の一部改正について、【資料 7】に基づき報告があった。

(6) 競争的資金獲得状況について

- 河村理事より、競争的資金獲得状況について、【資料 8-1】に基づき報告があった。
引き続き、平成 26 年度文部科学省技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」について、【資料 8-2】に基づき報告があった。

(7) 平成 26 年度卒業生・修了者の進路状況について

- 耳塚理事より、平成 26 年度卒業生・修了者の進路状況について、【資料 9】に基づき報告があった。

(8) 創立 140 周年記念募金について

- 羽入学長より、創立 140 周年記念募金について、【資料 10】に基づき報告があった。

(9) その他

5. 意見交換

(1) お茶大発 新型AO入試（新フンボルト入試）について

- 耳塚理事より、お茶大発 新型AO入試（新フンボルト入試）について、【資料 11】に基づき説明があり、学長より、ご助言願いたい旨発言があった。

■学外委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・現在の中央教育審議会の掲げる新しい高大接続の入試は理想と現実が乖離しているが、このAO入試は非常に素晴らしい。しかし選抜人数を増やすと設備や人的資源の面で大きな負担となるため、ある一定数を選抜すれば良いと考える。

- ・理系については、国際バカロレアの保持者を積極的に入学させる方向にしたほうが世界的に良いのではないか。
- ・第一次選考の書類審査では、高等学校の成績表をどの程度判断材料に入れるのか。
- ・求める人物像を「学際性と国際性をもった女性リーダーの発掘」としているが、試験においてリーダーシップをどのように測るのか。
- ・自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確に持つ学生を本学に入れることは大事な点であり、そうした精神をいかに一般入試に汎用させていくかということが、今後考えるべきテーマである。

■本学からの主な回答・発言は以下のとおり。

- ・大学教育への適用性という観点から見て、国際バカロレアのような外部試験の成績がそのまま役に立つ評価になれば、それを利用していきたい。
- ・高等学校の学業成績は、判断材料に用いることはあっても書類選考の中のごく一部の要素のみであり、大きな比重を占めていない。
- ・リーダーシップについて、文系理系とも討論を重視し、理系についてはグループ実験も観察の対象としている。
- ・例えばこのAO入試が持つ特徴を、後期日程の入試に汎用させていくことも現在検討している。
- ・このAO入試によって、大学が育てたい人材像を明確に伝えることが出来れば、高等学校教育や大学教育を考えるきっかけとなる。他にも波及が可能であるような入試にしたい。

6. その他

(1) 「女性研究者研究活動支援事業 平成 26 年度 キックオフシンポジウム」

- 羽入学長より、「女性研究者研究活動支援事業 平成 26 年度 キックオフシンポジウム」について、案内があった。

(2) 平成 26 年度卒業式・大学院学位記授与式

- 羽入学長より、平成 26 年度卒業式・大学院学位記授与式について、案内があった。
- 羽入学長より、平成 26 年度の開催予定について、【資料 12】に基づき説明があり、次回開催は、平成 27 年 3 月 17 日（火）15 時からであることを確認した。

以 上